

## みことばの聞き方

マルコの福音書 4章 1-20節

### はじめに

私たちの教会では、毎月テーマを決めています。そして毎月、第一週の礼拝の説教では、その月のテーマに従ってお話しています。7月のテーマは、「デボーション」となっています。今日は、イエス様のたとえ話から、「みことばの聞き方」について学びたいと思います。

### 1. 意味を考えながら

今日の聖書箇所 3-9節には、イエス様が語られた「種蒔きのたとえ」が書かれています。これはイエス様が「**群衆**」に語られたものです。群衆には、病気に悩む人、悪霊につかれた人などもいました。そして 13-20節には、「種蒔きのたとえの解説」が書かれています。これはイエス様がおもに弟子たちに語られたものです。つまり弟子たちは、「種蒔きのたとえの解説」を聞きましただけでも、群衆は「種蒔きのたとえ」だけを聞いたのです。

私たちがもし群衆のように、「種蒔きのたとえの解説」を聞かずに、「種蒔きのたとえ」だけを聞いたら、この「たとえ」の意味が分かったでしょうか。「たとえ」だけを聞いて、種が御言葉を意味し、それぞれ種が蒔かれた地が御言葉を聞く人を意味すると、どれだけの人が分かるでしょうか。弟子たちでさえ、解説を聞くまでは、その「たとえ」の意味が分からなかったのです。その意味で、当時の群衆は、イエス様が語られた「種蒔きのたとえ」が何を意味するか、全く分からなかったと思います。分からないまま家に帰ったと思います。

しかしイエス様は、この「種蒔きのたとえ」を語り始める時、3節でこう言われました。「**よく聞きなさい**」。そしてこの「たとえ」を語り終えた時、9節でこう言われました。「**聞く耳のある者は聞きなさい**」。イエス様は、この「たとえ」を語る前後で、よく聞くことを群衆に求めました。それは、よく考えながら聞くということだと思います。この「たとえ」が何を意味しているのかよく考えながら聞きなさい、この「たとえ」が自分とどんな関係があるのかよく考えながら聞きなさいということだと思います。

イエス様は、解説がなければ誰も理解できないような「種蒔きのたとえ」を、よく考えながら聞きなさいと言われて、群衆に語られました。それは、群衆に「聞く力」、「考えながら聞く力」を求めたからです。イエス様は、御言葉を聞き流すのではなく、よく考えながら聞くことを求めておられるのです。御言葉が何を意味するのか、御言葉が自分とどんな関係があるのか、それらのことを考えながら御言葉を聞く力を、イエス様は私たちに求めておられるのです。

礼拝の説教では、牧師はできるだけ分かり易く御言葉の意味を説明し、現代の私たちに適

用しようと努めます。これは牧師に求められることです。しかし礼拝の説教を聞く信徒の皆さんにも求められることがあります。それは、よく考えながら聞くことです。牧師が語る説教をそのまま聞くだけでなく、それをよく考えながら聞くことです。その御言葉が意味することは何か、自分とどんな関係にあるのかをよく考えながら聞くことです。牧師が語る説教をさらに自分の人生や生活に適用することです。

イエス様は必ずしも分かり易いことだけを語りませんでした。分かり難い「たとえ」だけを語られ、群衆に考えさせたのです。御言葉を聞く人にも、聞く力を求められたのです。私たちは礼拝の説教を聞く時、家でデボーションをする時、御言葉を聞く力が求められているのです。私たちの聞く力が成長する時、御言葉が私たちの内で、三十倍、六十倍、百倍の身を結んでいくのです。

## 2. 悔い改めながら

イエス様は、「種蒔きのたとえ」をよく考えながら聞くことを群衆に求められました。しかし群衆の多くは、その「たとえ」が何を意味しているかが分からなかったと思います。弟子たちでさえ、その意味が分かりませんでした。そこで弟子たちは、10 節にあるように、イエス様にこの「たとえ」について尋ねるのです。

するとイエス様は、11 節でこのように言われます。「**あなたがたには神の国の奥義が与えられていますが、外の人たちには、すべてがたとえで語られるのです**」。イエス様は、弟子たちには「神の国の奥義」を語るけれども、群衆には「たとえ」で語ると言われるのです。「奥義」とは、「隠された真理」のことです。「たとえ」とは、「謎」という意味です。イエス様は、弟子たちには「神の国の隠された真理」を語るけれども、群衆には「神の国の隠された真理」を「謎」のままにされると言われるのです。4：33-34 にもこうあります。「**イエスは、このように多くのたとえをもって、彼らの聞く力に応じてみことばを話された。たとえを使わずに話されることはなかった。ただ、ご自分の弟子たちには、彼らがいるときに、すべてのことを解き明かされた**」。イエス様は、弟子たちにだけ「たとえ」の意味を解き明かされて、「神の国の真理」を語り、群衆には「たとえ」のまま、「神の国の真理」を「謎」のままにされたというのです。

なぜイエス様は、群衆には「神の国の真理」を「謎」のままにされるのでしょうか。12 節でイエス様はこう言われます。「**『彼らは、見るには見るが知ることはなく、聞くには聞くが悟ることはない。彼らが立ち返って赦されることがないように』**」。

イエス様が、群衆には「神の国の真理」を「謎」のままにされる理由は、群衆はイエス様の御業を見るけれども、イエス様を知ろうとしていない、またイエス様の御言葉を聞くけれども、イエス様の御言葉を悟ろうとしてないからだと言われるのです。また彼らは、イエス様の御業を見て、イエス様の御言葉を聞いても、決して神様に立ち返ろうとしないからだと言われるのです。彼らは、イエス様を知ろうとも、御言葉を悟ろうとも、神様に立ち返ろうともしていない、だから「たとえ」の意味を解き明かさず、「神の国の真理」を「謎」のままにされるのだと言われるのです。

しかしイエス様は、「神の国の真理」を全く隠されるのではありません。ただ解き明かさないだけです。「たとえ」で語り、「神の国の真理」を明瞭に語らないのです。しかしイエス様は、イエス様を知ろうとする者、イエス様の御言葉を悟ろうとする者、神様に立ち返ろうとする者、つまり「聞く耳のある者」には、「神の国の真理」を現されるのです。だからこそイエス様は群衆に、「よく聞きなさい」「聞く耳のある者は聞きなさい」と言われたのです。

イエス様はなぜ弟子たちには、「神の国の真理」を解き明かされるのでしょうか。それは、イエス様の恵みによろしか言いようがありませんが、一つ言えることは、弟子たちがイエス様に「尋ねた」からだだと思います。「たとえ」の意味を知ろうとする熱心さがあったからだだと思います。

イエス様は、イエス様を知ろうとする、また御言葉を悟ろうとする熱心さを持つ者に、「神の国の真理」を現されるのです。私たちは御言葉を聞く時、そのような熱心さを持つ必要があります。私たちの御言葉を聞く熱心さは、二つの方向で現れます。一つは「祈り」です。私たちは、どんなに熱心に御言葉を聞いたり読んだりしても、聖霊によらなければ、その意味を知ることでも悟ることでもできません。私たちは、聖霊に「御言葉の真理を私に現わしてください」と祈らなければなりません。もう一つの熱心さは、御言葉を調べる熱心さです。聖書には様々な注解書、辞典などがあります。御言葉の意味が分からない時は、自分で調べる熱心さが必要です。

私たちは、イエス様を知ろう、御言葉を悟ろうとする熱心さと共に、悔い改めの熱心さも必要です。「立ち返る」とは、「向きを変える」「生き方を変える」ことを意味します。私たちは、自分の生き方を変える思いで御言葉を読むことが大切です。慰めや励ましばかりを求めめるのではなく、御言葉に従う思いで読まなければなりません。

### 3. 愛し、聞き続けながら

イエス様は、14-20節で弟子たちに「種蒔きのたとえ」の意味を解き明かされます。弟子たちには、「神の国の真理」を解き明かされるのです、

14節には、「**種蒔く人は、みことばを蒔くのです**」とあります。「種蒔きのたとえ」の種は、「御言葉」なのです。イエス様は私たちに、御言葉の種を蒔かれます。しかし御言葉の種は、皆が同じように実を結ぶわけではないのです。イエス様が蒔く種だからといって、必ず実を結ぶわけではないのです。蒔かれた人によって、ある人は実を結び、ある人は実を結ばないのです。イエス様は、そのことを語ろうとしているのです。

道端に御言葉が蒔かれる人というのは、御言葉を聞いても、すぐにサタンにその御言葉を取り去られてしまう人です。つまり御言葉を聞いても、その人の心の中にも起こらないのです。その人の心の中で何かが起こる前にサタンが御言葉を取り去ってしまうのです。それゆえその人は、ただ御言葉を聞くだけで、何の反応も示さない人です。

岩地に御言葉が蒔かれる人というのは、御言葉をすぐに喜んで受け入れるけれど、困難や迫害が起こるとすぐにつまずいてしまう人です。この人は、御言葉をすぐに受け入れるけれど

ども、すぐにつまずいてしまうのです。御言葉を受け入れるのも早いけれども、御言葉を捨てるのも早いのです。この人が御言葉を受け入れるのは一時的です。長くは続かないのです。それは、根を張っていないからです。御言葉を表面的に理解して、深く理解していないからです。この人は、喜びがある限り御言葉を聞くのです。御言葉の慰め、励ましを喜んで聞くのです。しかし御言葉のために苦しむことはしないのです。御言葉に従うことはしないのです。困難や迫害の中でも、つまり苦しみの中で御言葉を聞くことはしないのです。

茨の中に御言葉が蒔かれる人というのは、この世の思い煩い、富の惑わし、その他の様々な欲望に御言葉がふさがれて、実を結ばない人です。この人は、御言葉をサタンに取り去られることも、御言葉を捨てることもしないのです。しかし、御言葉が実を結ばないのです。

この人は、御言葉がふさがれてしまうのです。「ふさぐ」という言葉は、「押さえつける」「窒息させる」という意味の言葉です。この人の心に御言葉は入ってくるのです。しかし入ってきているのですけれども、この世の思い煩い、富の惑わし、様々な欲望が心の中にあって、御言葉が力を発揮できないでいるのです。思い煩い、富、欲望が心の中で大きくなりすぎて、御言葉が窒息し、押しつぶされそうになっているのです。

良い地に御言葉が蒔かれる人というのは、御言葉を聞いて受け入れ、多くの実を結ぶ人です。道端、岩地、茨の中に御言葉を蒔かれた人は、御言葉を「聞く」時、原文では過去形で書かれています。しかし良い地に御言葉蒔かれた人は、現在形で書かれています。つまり良い地に御言葉を蒔かれた人というのは、御言葉を聞き続ける人なのです。

また御言葉を「受け入れる」という時の「受け入れる」も現在形で書かれています。この人は、御言葉を聞き続け、受け入れ続けるのです。しかもこの「受け入れる」という言葉は、「愛する」という意味もあります。良い地に御言葉を蒔かれた人は、御言葉を聞き続け、愛し続ける人です。そして、御言葉を表面的に理解するのではなく、深く理解し、しっかりと根を張ります。そして思い煩いや富や欲望を捨てて、御言葉で心を満たすのです。

## **おわりに**

イエス様は、「種蒔きのたとえ」で、御言葉を聞き続け、愛し続けることを求めておられます。思い煩いや富や欲望に心を支配されずに、御言葉で満たされることを求めておられます。どのような苦しみの中でも、御言葉を愛し続け、聞き続けることを求めておられます。

しかしこの「種蒔きのたとえ」を解き明かされた弟子たちは、御言葉を聞き続け、愛し続けることができたでしょうか。彼らは、イエス様が十字架に架かり復活するまで、また聖霊を受けるまで、御言葉を聞き続け、愛し続けることはできませんでした。彼らは、偉くなることを求め、様々なことを心配し、イエス様を捨てて逃げてしまいました。彼らは、自分たちの力では、御言葉を聞き続け、愛し続けることができなかったのです。

私たちも同じです。私たちも聖霊の力によらなければ、御言葉を聞き続け、愛し続けることはできません。聖霊は、私たちに御言葉を与え、御言葉の意味を私たちに明らかに示してください。私たちは聖霊の力を求め、御言葉の実を結んで歩んでいきましょう。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたはイエス様を通して、私たちの心に御言葉の種を蒔いてくださっています。どうか私たちの心の中で御言葉が実を結ぶことができますように。私たちは、道端に御言葉を蒔かれた人のようでしょうか。それとも岩地に蒔かれた人のようでしょうか。それとも茨の中に蒔かれた人のようでしょうか。どうか私たちが聖霊の力によって、しっかりと根を張り、心を御言葉で満たし、どんな困難の中でも御言葉を聞き続け、愛し続けることができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。